

研 究

当院における産後の電話訪問の現状と今後の課題

菅原 千枝, 木村 郷美, 小笠原 ひとみ, 真坂 千愛, 木村 恵子

八戸赤十字病院 3A 病棟

Key words : 電話訪問, 産後の悩み, 退院後の母子支援

論文要旨

出産後の褥婦への継続支援, 指導方法の検討のため, 出産後 1 か月間の悩み, 要望等をアンケート調査した. その結果, 現在実施している退院 1 週間後の電話訪問による満足度, 悩み解消度は高いことが分かった. 退院から電話訪問までの期間よりも電話訪問から産後健診までの期間の方が悩みは増加していた. 悩みの内容によっては電話訪問では解決しにくいこともあり, 電話による支援には限界があった. 電話訪問から産後健診までの間に, ニーズに合わせた適切な支援が必要であることが調査結果から示された.

I. はじめに

今日の核家族化や情報の氾濫により産褥期の母親の不安は多様化してきている. 現在, 当院では, 助産師外来での妊婦健診, 分娩期の介助支援, 産後の母子への支援, 入院中の各指導, 退院 1 週間後の電話訪問, 産後 1 か月健診時の面談を通して妊産褥婦へ継続支援を行っている. 今回, 当院における電話訪問の現状を調査したので報告する.

II. 研究目的

当院で現在行っている退院 1 週間後の電話訪

問の現状を明らかにし, 産後 1 か月健診までの指導の方法を検討することを本研究の目的とした.

III. 研究対象及び方法・倫理的配慮

1. 調査対象

退院 1 週間後の電話訪問 (以下電話訪問とする) を受けて, 2017 年 8 月 21 日～10 月 2 日の間に産後 1 か月健診 (以下産後健診とする) を受診した 67 名.

2. 調査方法

産後健診にて無記名自記式質問紙を配布し, その場で記入, 設置した回収箱への投函をもって研究への同意が得られたものとした.

3. 調査項目

年齢, 出産歴, 里帰り出産の有無, 分娩方法, 産後の退院先, 産後 1 か月間の育児協力者 (複数回答)・協力内容 (複数回答)・栄養方法, 電話訪問の時期・時間帯は適切であったか, 電話訪問で相談したこと (複数回答), 電話訪問での悩み解消度 (%)・理由, 助産師に希望するアドバイスの有無・内容, 電話訪問での満足度 (%)・理由, 電話訪問から産後健診まで悩んだこと (複数回答), 病院からの産後支援の要望について.

4. 分析方法

初経産, 栄養方法別に悩んだ内容・満足度・

悩み解消度を、育児協力者単数者と複数者別に悩みの有無を比較した。統計処理はX²乗検定を行い、期待値5以下のものはフィッシャー直接確立法を行った。電話訪問時と産後健診までに悩んだ内容に関してはウイコクソン検定を行った。有意水準は5%とした。

5. 倫理的配慮

本研究は当院の倫理調査委員会の承認を得たうえで実施した。研究趣旨・方法・研究参加や中止の自由意思、プライバシーの保護、個人の不利益の対処について文書・口頭で説明、同意を得た。

本研究に際して開示すべき利益相反はない。

IV. 研究結果

1. アンケート回収は61部（回収率91%）、有効回答は52部（有効回答率77.6%）。
2. 対象属性

平均年齢29.73歳（標準偏差：SD5.42）。初産婦21名（平均年齢26.85歳）、経産婦31名（平均年齢31.67歳）。里帰りは21名（40.38%）、里帰りではない31名（59.62%）。分娩方法は自然分娩34名（65.38%）、帝王切開18名（34.62%）。

退院先は自宅20名（38.46%）、実家28名（53.85%）、その他4名（7.69%）。

産後1か月間の栄養方法は母乳のみ11名（21.15%）、混合38名（73.08%）、ミルクのみ3名（5.77%）。
3. 産後1か月間の育児の協力者（複数回答）は、実母40名、夫35名、実父17名、義母9名、義父4名、他8名。育児の協力者を1名と答えたものは13名、複数名と答えたものは39名で平均2.19名。育児協力者の人数による産後健診までの悩みの有無に有意差はみられなかった。
4. 産後1か月間に手伝ってもらったこと（複数回答）は、家事46名、児をあやす44名、沐浴37名、オムツ交換31名、哺乳25名、他2名。
5. 電話訪問の時期に関しては、ちょうど良い49名（94.23%）、早い1名（1.92%）、遅い1名（1.92%）、覚えていない1名（1.92%）。
6. 電話訪問での悩み解消度の平均は86.93%（SD16.28）。
7. 電話訪問の満足度の平均は90.68%（SD15.47）。初産産、栄養方法、育児協力者の人数別の満足度に有意差はなかった。
8. 電話訪問で助産師に希望するアドバイスの有無は、なし45名（86.54%）、あり3名（5.77%）、無回答4名（7.69%）。
9. 電話訪問での相談内容（複数回答）は授乳27名、児の肌トラブル8名、乳房7名、臍6名、悪露5名、会陰切開創・会陰裂傷4名、児の排泄4名、吸い付き3名、便秘0名、貧血0名、精神面2名、他12名だった。授乳、乳房、吸い付きを授乳関連とし、それ以外を自分のことと児のことの3つに分類すると、授乳関連は38名、自分のことは13名、児のことは26名だった。
10. 電話訪問から産後健診までの間、悩みのあったものは35名（67.31%）、悩みなし11名（21.15%）、無回答6名（11.54%）。初産婦と経産婦に有意差があった。（ $P<0.05$ ）
11. 電話訪問から産後健診までの間で悩んだこと（複数回答）は、授乳16名、次いで児の肌トラブル14名、吸い付き9名、乳房8名、悪露8名、会陰切開創・会陰裂傷7名、精神面5名、児の排泄5名、便秘3名、貧血2名、臍1名、他17名。授乳、乳房、吸い付きを授乳関連とし、それ以外を自分のことと児のことの3つに分類すると、授乳関連は33名、自分のことは32名、児のことは30名だった。電話訪問時より授乳、臍の悩みは減少しており、それ以外の自分に関すること、児に関することの悩みは人数として増加はみられたが有意な増加はなかった。
12. 電話訪問での相談内容で最も多かったのは授乳、次いで児の肌トラブルで、電話訪問から産後健診まで悩んだ内容も同様であった。

13. 退院から産後健診まで病院から産後の支援で電話訪問のほかに行ってほしいことについては、21名から回答あり。授乳面のサポート、児の肌トラブルなど具体的に教えてほしい、2週間目くらいで健診のようなものがあればよい、電話か健診か選べるとなるとよい、困った時に電話できる体制、と回答があった。

V. 考 察

初産・経産別の電話訪問後から産後健診までの悩みの有無に関して、有意差があり、島田ら¹⁾の産後1か月間の母子の心配事は初産婦が有意に多かったという報告と同様の結果となった。初産婦は経産婦に比べ、支援を必要とするが、経産婦は前回の育児経験との違いに対する戸惑いや上子と児の関係など、初産婦とは異なった悩みも考えられ、支援が必要な対象を見極めていく必要があると考えた。

電話訪問の満足度、悩み解消度に関しては、ともに高く、概ね褥婦のニーズに合っていると考えられた。しかし、久保²⁾がエジンバラ産後うつ病自己評価表（以下EPSPDとする）等を用いて調査した結果、妊産褥婦のEPSPD陽性者の割合は、産後2週間がピークであったが産後1か月も高率であったと報告している。退院から産後健診までは医療機関とのつながりが減少し不安を強める時期といえる。有意差はみられなかったが、電話訪問から産後健診時までの方が悩みは増加していた現状から、子育てをしていく中で、日々の見や自己の変化に伴い、その都度新たな気づきや悩みが生じていると考

えられ、その時々ニーズに合った支援が必要であると考えられた。片岡³⁾は「母乳のこと」「精神的なこと」、児の「授乳のこと」は電話訪問では解決しにくかったとし、兼松⁴⁾も1回の電話訪問では1か月健診時の母乳栄養率をあげることができなかつたと述べている。このことから、電話による支援には限界があるといえる。今回の調査においても電話訪問から産後健診までの間に悩みがあったものが6割を超えており、その間の支援の必要性が示唆された。当院の産後1か月間の栄養方法は母乳のみが21.15%で、平成27年度の厚生労働省による調査結果51.3%に比較し、混合栄養が多かった。母乳育児支援強化の必要性も考えられた。短い入院期間で育児技術の習得、母乳育児の確立までは困難であり、褥婦と児に対し、個別性のあるきめ細かい継続的支援の必要性があると考えた。産後2週間健診を希望する回答もあったことから、不安を強める時期の支援が必要と考えた。当院は、母乳外来と称して産後の母乳育児支援を行っており、産後2週間健診の導入を検討中である。今回の調査を踏まえ、支援の在り方を検討していく必要があると考えた。

VI. 結 論

電話訪問の満足度は高かった。電話訪問後から産後健診までの悩みの有無に関して、初産婦と経産婦に有意差があり、初産婦がより支援を必要としていた。電話訪問から産後健診までの間の悩みや不安への対応として、産後2週間健診など支援の在り方も検討していく必要があると考えた。

文 献

- 1) 島田三恵子, 杉本光弘:産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査-「健やか親子21」5年後の初経産別,職業の有無による比較検討-,小児保健研究,第65巻,2006:65:752-762
- 2) 久保隆彦:産後2週間健診,必要な理由と,見るべきポ

イント,医学書院,助産雑誌71巻,2017:71:667-669

- 3) 片岡隆子,竹中露子,中村洋子,他:退院後1週間の褥婦に対する電話訪問の効果,母性看護,2003:34:17-19
- 4) 兼松富子:母乳栄養継続に向けての電話訪問の有効性,母性看護,2004:35:166-188.

